

財政改革推進委員会 第二次答申出される

池田町行財政改革推進委員会は、1月27日行財政改革に関する第二次答申を町長に提出しました。傍聴しましたので主な内容をお知らせします。

1. 付属機関に関して取り組むべき対策
 - (1) 付属機関の統合
- ①引き続き業務の推進が求められている機関については「存続」
- ②当初の意義・役割を果たし終えた機関については「廃止」
- ③一本化を通じて機能向上が期待される機関については「統合」を行うとともに、委



員任命数のスリム化を図ることを基本とする。

- (2) 委員の任命数の削減（付属機関の任命数は10人以下）

読者の声

もう結構ですう

コロナワクチン接種の話題がテレビで取りあげられる時、腕まくりをしている人にワクチンの注射針が差し込まれる様子が流れます。

あの映像は必要なのでしょうか。針先が皮膚に刺さる時、見ていて思わず、「痛い」と言ってしまう。あまり見たくない画です。チャンネルを変えても「ふすつ」、また変えても「ふすつ」。時に針先で皮膚がくぼんで差し込まれる様子が大写しでもう、結構ですう。

吾妻町 西田良平

2. 農業委員会に関して取り組むべき対策
 - (1) 委員数の削減及び報酬の検討

- (2) 農業委員会の機能強化
- (3) 地区割りの再検討
- (4) 業務効率化・実態把握

3. 議会に関して取り組むべ

アベノマスクは 安倍さんに返品して！

決算検査で保管料約6億円の無駄遣いを指摘され、廃棄決めていたアベノマスク。

配布希望が殺到して、無駄遣いの張本人が「もつと早くやってくれば」と言ったとか。この配送料10億円、廃棄なら6千万円。
そもそも世間から猛批判を受けながら配布したアベノマスク。

当時の読売新聞世論調査で、「評価しない」「役に立たなかった」が7／8割。使っている人3.5％。今や安倍さん自身が使わない。こんなもん、本人に全部返品だわ。

き対策

- (1) 議員定数の削減（定数を1／2人削減する）
- (2) 議員報酬の増額（議員定数の範囲以内で増額）
- (3) 議会に対する町民の関心向上及び議会の機能強化

中島 牛越邦夫

涼しい顔で無駄遣い引き継ぐ岸田政権にアベ政治の反省なし。
豊町 曾根原鈴美

ガソリン高騰に対する 補助金の効果は

昨年12月、政府はガソリン高騰を抑えるため、補助金を出す制度を作りました。

21年度補正予算で800億円を計上し、レギュラーガソリンが170円を超えると石油元売り会社に補助金を支給するものです。

しかし小売価格を直接引き下げる制度ではないため、2月17日現在池田のA店は177円、B店は179円



で販売されています。補助金の効果は全くありません。税金の無駄使いではないでしょうか。
60代男性

憲法改悪を許さない全国 署名に御協力を！

昨年の総選挙で憲法発議に必要な3分の2の議席を得たことから、岸田政権は改憲に前のめりとなっています。首相の指示で「憲法改正推進本部」を「実現本部」に改組しました。9条に自衛隊を書き込み「集団的自衛権・敵基地攻撃能力」を持つ、戦争できる国に仕立て上げようとしています。

これに対し「9条改憲No！全国市民アクション」は、憲法改悪を許さない全国署名を取り組んでいます。

憲法を生かし、平和と民主主義、人権、環境、暮らし・医療などの向上を実現する政治を創るため、署名を集めています。皆さんのご協力をお願いいたします。

池田原水協 太田勲

聞きたい！

財政きびしい池田町の来年度予算

町の議員さんに、来年度一般会計予算案の主な新規・拡充事業について聞きました。

予算総額は51億1800万円（前年度予算より4億4780万円減）とのことです。

町長は来年度予算のテーマとして「少子化対策」「ゼロカーボン社会の実現」「健康長寿のまちづくり」の三点を提示しました。

少子化対策では、小中学校児童生徒の給食費一人3万円補助（前年より1万円増の2262万円）、かえで広場遊具等整備（遊具・あづま屋整備、3000万円）、ゼロカーボン社会の実現に向け、エコ住宅リフォーム補助金（1件10万円補助、500万円）が計上されています。



公的年金0.4%引き下げ

物価高騰下でなんとも愚策

岸田政権は公的年金額の22年度の改定率を「マイナス0.4」と定め、2年連続で年金削減を強行しようとしています。

安倍・菅・岸田の自公政権10年間で公的年金額は、実質6.6%も削減されることになります。食品や燃料など物価が急上昇している下での削減は、年金のみが収入源である高齢者にとって生活の危機と云えます。



老齢基礎年金で月259円、厚生年金で903円の減額です。

年金者組合は「生活に深刻な影響を与え、家計を直撃する年金削減は中止すべき」と訴えています。

年金者組合員

文芸欄

今月は川柳です

- グラフ伸び又また故郷遠くなり
- 餌やれど愛想はしない寒雀
- 六波来たアマビエさんも雲隠れ

徳子 邦夫 山茶



コラム 有明

カラスの糞害に悩んでいる。車に落ちた糞を毎朝ふき取るのも大変だ。そこで、カラスの生態を調べてみた。
ハシブトガラス・ハシボソガラスがこれほど身近に多いのは世界でも日本くらいだという。カラスは野鳥のため法的にも捕獲は禁止されている。木の上に50cmほどの皿形の巣を枝で作り、子育ては年1回、3月に卵からヒナが巣立つ50日間位は警戒心が強くなるらしい。カラスは早起き、薄暗いうちからエサ探し、喉に袋がありエサを溜め込む。休憩しながら離合集散型移動をしている。縄張りはあるがボスはいない。40度の体温を保ち空飛ぶ消費エネルギーは大きく1日のエサ量は200グラムと大食い。そこで体を軽くするために消化を早くし、飛び立つ時に排泄をする。特に夕方は群で電線に集まり、ねぐらに移動する瞬間は一斉に糞を落としていくから町なかは大変な被害。雑食で雑菌も多く住民の悩みだ。20年生きると18回繁殖し、90個産卵、そのうち繁殖数は30羽くらい。カラスのエサになるものを減らし増殖させない策しかないそうだ。視力抜群で人やエサを見分ける能力がある。エサやりは禁のこと。